

## 平成30年度 放送番組審議会 議事録

### (株式会社ジェイコム九州 熊本局)

日 時：平成30年12月19日（水） 14：00～16：00

場 所：株式会社ジェイコム九州 熊本局 会議室

#### 出席者

委 員：宮園 博光氏（会長）、池田 明美氏、熊宮 敏紘氏、山崎 苑華氏、  
田中 誠一氏、安田 二郎氏

事務局：株式会社ジェイコム九州 熊本局

代表取締役社長 徳田 瑞穂、取締役熊本局長 前田 貴敏、  
地域プロデューサー 河村 文治

株式会社ジュピターテレコム 西日本メディアセンター  
センター長 仲川 圭、熊本事務所長 本田 憲生、  
熊本事務所 牧 幸生、中村 文香

#### ●司会進行 宮園会長

##### 1、徳田社長 開会挨拶

弊社自主番組において委員の方々には、熊本の人にとって有益な情報であるかどうかを厳しく審議いただければ幸いである。特に新任の委員の方には、感じたままのご意見を承りたい。来年度以降熊本は、国際スポーツ大会や大型複合施設の完成など大きな事案が目白押しである。

これらを見据えたうえでの番組づくりの方向性を含め、忌憚のないご意見を承りたい。

##### 2、宮園会長 進行

今回は、2名の委員が新任された。

（新任：田中委員、安田委員）

本日の審議会には、委員6人中6名が出席。株式会社ジェイコム九州放送番組審議会規定第4条に基づき、当会は成立。

##### 3、会長、副会長選出

宮園会長）今回2名の委員が新任されたため、株式会社ジェイコム九州放送番組審議会第3条3項に基づき、会長・副会長を新たに選任したい。

池田委員) 会長に宮園委員、副会長に熊宮委員を推薦したい。

委員一同) 異議なし。

宮園会長) 他薦のうえ異議なしということで、会長に宮園、副会長に熊宮委員を選任する。また、今年度における自主番組放送基準等の変更はなし。

#### 4、議題1

自主制作番組実績について

##### ① コミュニティチャンネル概要説明

##### ② レギュラー番組についての説明

(各番組のダイジェストを放送し、説明)

★デイリーニュース(今年度の取り組み・中体連スペシャル含む)

★新番組:「HELLO!VOLTERS」・「LIVEマルチ情報館」

★ミニ番組:「イタガキのHandHand」・「動植物園だより」

##### ③ 特別番組についての説明

(各番組のダイジェストを放送し、説明)

★熊本地震復興祈念特別番組「熊本地震から二年…私たちだからできること」

★第2回 熊本地震復興祈念コンサート

★藤崎八幡宮秋季例大祭 2018 生中継

★秋季九州地区高校野球大会

★地方首長選挙速報(益城町・菊陽町・熊本市)

★ひごポップ

★響け!絆を紡ぐハーモニー ~益城中学校吹奏楽部のキセキ~

※放送予告(初回放送予定:平成30年1月19日)

##### ③ その他

・J:COMテレビ(Jテレ)概要・番組紹介

・地域情報アプリ「ど・ろーかる」紹介

#### 5、番組審議「ひごポップ」

#### 6、議題1・番組審議の質疑応答

委員)「ひごポップ」に関して、視聴率はどうだったのか?

自社のアナウンサーより芸能人を起用した方がより視聴率が上がるのでは。

スポット紹介に関しては、その場所に行ってみたいという気持ちになった。

委員)芸能人ではなく自社のアナウンサーの方がかえって身近に感じ、楽しく視聴できた。

事務局) 視聴動向は、通常番組より良かった。

他エリア(福岡・北九州エリア)での放送も行っているので、今後熊本へのインバウンドに繋がるようにしていきたい。

委員) インバウンドに関しては、どの程度掘り下げていくかが問題。

またこの番組は、「ど・ろーかるアプリ」で配信しているのか。

事務局) ラウンドマーク的な観光スポットと穴場的な観光スポットの兼ね合いを今一度考える。「ど・ろーかるアプリ」では、配信していないので検討する。

委員) 地域の魅力が詰まった番組に感じた。同じく地域密着の団体である商工会と協力したらもっと良い番組になるのでは。お互いにメリットがあると思う。

事務局) 弊社から地元の商工会等に協力を要請する。

委員) 出演者が同世代なので、同じ目線で視聴することができた。もう少しスポットを掘り下げてもよかったのでは。

委員) コンセプトがインバウンド重視であれば内容が弱いのでは。

委員) 観光スポットの食は、興味を引く。

また観光紹介であれば地図をマストで入れるべき。

事務局) 「ひごポップ」は、今後も定期的に制作していきたいので、頂いたご意見を参考に善処する。

#### ー自主番組全般についてー

委員) 番組に関して、スポーツの話題が多くなった。

委員) 来年熊本で開かれるRWCや女子ハンドボール世界選手権などの情報が県内にいきわたってない気がする。ボランティア不足が懸念されるので積極的にPRしてほしい。

委員) 合わせて地域のスポーツ大会も取り上げてほしい。

事務局) 来年行われる国際大会については、引き続き最大限PRに努める。

今年チャレンジした高校野球の秋季大会については、来年以降も継続したい。九州は剣道・柔道などの武道も盛んなので、来年以降取り上げていければと思う。

委員) 地元大学との連携強化について具体的に教えてほしい。

事務局) J:COMでは、崇城大学・コンセプトラボ株式会社と3社連携協定を結んだ。これにより現在、学生が主体で制作する番組「探究! 肥後の爽風」を放送している。大学とともに地域の活性化また地域の課題解決にJ:COMとして取り組むことができると考える。

## 6、議題2

自主制作番組 今後の方針について

## 7、議題2の質疑応答

事務局) 今後、J:COMチャンネル熊本で、より有益な情報を届けるための建設的なご意見を承りたい。

委員) 熊本では、「地元に残す」という観点から企業誘致に力をいれている。実際、工場が建設されており雇用の需要も増えてきている。この情報を多くの人に知らしめれば地元に残る人も増えると思う。

委員) 動物愛護センター等、動物の命の大切さが分かる情報も流して頂ければと思う。

委員) 国際スポーツ大会や、熊本地震からの復興情報が必要だと思う。

委員) 熊本の仮設住宅での情報が必要だと感じる。特に高齢者だけで仮設住宅に住んでいる人は新しく家を建てるににくい状況がある。そのような課題を番組で取り上げて頂きたい。

委員) 国際スポーツ大会に関して座談会を開いたことがあり、交通・インバウンド・多文化共生が挙げられた。

委員) MICEや改修する熊本駅の未来図など興味がある。

事務局) 頂いたご意見は、現在、デイリーニュースのトピックスで取り扱ってはいるが、今後特集として考えたい。また有識者による座談会の開催も必要だと感じた。

## 9、前田局長 閉会挨拶

熊本は、これから大きく変わろうとしている。熊本地震からの復興はもちろんのこと、新しいものや昔ながらの町並みなど、さまざまなものが混在している。これらをうまく融合するキーパーソンの役目をJ:COMが担っていきたい。また、J:COMの「ど・ろーかるアプリ」は、災害時の情報共有が最大の目的。

今後多くの市民と双方向でのやりとりが活発にできるよう認知活動に努めて  
いきたい。

以上



平成 30 年 12 月 19 日  
株式会社ジェイコム九州熊本局 3F 会議室